

第32回石川建築賞 受賞作品

◎優秀賞 コマツ青路寮

設計者：清水建設株式会社北陸支店一級建築士事務所

施工者：清水建設株式会社 北陸支店



コマツ栗津工場の社員寮として建築されたものである。

寮と工場の上に住宅団地を抱えているため、緩衝地帯としての公開緑地を設け、付近住民に開放している。

さらに主体である寮建築もボリュームを和らげるため低層部分の高さを段状に造って、圧迫感の低減を図り、周辺への配慮が強く感じられる。

計画コンセプトは地域社会との共生を目指したもので、

それが見事に体现されており高く評価される。3つの棟を短冊状に並べ、低層階で繋ぐ単純明快な平面構成であるが、各棟の中庭は屋内外の連続性を確保するのに成功している

◎優秀賞 中日新聞北陸本社

設計者：株式会社竹中工務店名古屋一級建築士事務所

施工者：株式会社 竹中工務店 名古屋支店



中日新聞社の企業イメージである透明性、先進性を、シンプルで端正なガラスのカーテンウォールのファサードに如実に表現されている。

また、50m 道路の緑豊かなケヤキ並木や空の表情をファサードに映り込ませ、内部からの眺めも効果的な演出がなされ、まちなみ景観との共生が図られ魅力的である。

特に「建築環境総合性能評価システム」を導入して省エネ・省資源などの環境負荷低減と室内環境の快適性を追求したオフィスビルとして石川県下では先駆的な存在であることも高く評価される。

◎優 秀 賞 石川県政記念 しいのき迎賓館

設計者：株式会社 山下設計

施工者：大成・兼六特定建設工事共同企業体
株式会社 岡組



歴史的建造物としての旧石川県庁本舎本館の保存・再生された建築である。

永年にわたって金沢市の中心部におけるランドマークとして親しまれた南側表面ファサードを保存し、その背面をまったく

新しい現代的な表現のファサードを構成する、いわゆる新旧二面性を持った建築が創造され、新旧の融合と対比が見事である。

ことに新築された内部空間はこれまで見ることのできなかつた金沢城公園の石垣景観を楽しむ空間となり、多くの人々が訪れるようになり、まちなかの賑わいに大きく貢献していると高い評価を受けている。

入 選 小松精練本社棟

設計者：水野 一郎

蜂谷 俊雄 + 金沢計画研究所

施工者：清水建設・トーケン共同企業体



建物全体を覆う大きな庇は、来訪者や全社員に傘を差し出している印象を与え、特に玄関付近の大開口はダイナミックな空間となり、入りやすさを高めている。

建物の外観は、外壁に押出成形セメント板、露出した構造柱は溶融亜鉛メッキなどの無機的な素材を基調にしている。

一般的素材を巧みに使い分けることによって、東面は白山連峰から朝日を浴び、

西面は日本海に沈む夕日を浴びて、それぞれの面の有機的的表情が醸成され、建築造形としてのプロポーションも洗練されていて美しい。

入 選 加賀麩司宮田

設計者：松島健建築設計事務所

施工者：株式会社 豊蔵組



歴史的まちなみの風情を残す浅野川沿いの東山に立地する加賀の伝統的食材・麩の製造販売を行う店舗併用住宅である。

創業 130 年を超える老舗の本店というイメージから想起される伝統的外観を完全に脱却したファサードに見えるが、根底には和のイメージを現代的な表現に翻訳したと見るべきである。

背後の住居部分は狭小間口の町家の平面構成を踏襲しながら現代的居住空間が創られている。2 階寝室に付くバルコニーの壁の開口は額縁となり、浅野川対岸の景色が一枚の風景画となるような巧みな工夫がなされている。

※今回、「知事賞」該当作品はありませんでした。